

コロナ問題の本質とコロナを超える視座

（二財）日本総合研究所会長 寺島実郎

- * コロナを巡る歪んだ情報環境
- * 不可欠な全体知への接近
- * 深まる日本経済の埋没感
- * コロナでアベノミクスが吹き飛んだ
- * 重み増すアジアダイナミズム
- * 株価時価総額に見る驚くべき彼我の差
- * 実体経済以上に高騰する株価
- * 円安を歓迎する政治・経済界
- * ものづくり国家の現場力も失速気味
- * 再構築のために何をすべきか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

このところ毎年年末恒例になりましたが、今年も寺島さんに締めのお話をしていただきました。連日、テレビでは相変わらず感染状況と自粛対策についていろいろなことが叫ばれておりますが、私もこの問題についてはちょっと本質とずれたような社会状況だと感じております。

そういう意味で、今日は寺島さんからコロナ問題の本質についてお話いただき、それからその先、日本経済、日本の社会のこれからの姿をどう見たらいいか、それをいつものようにじっくりとお話をしていただきたいと思えます。

それでは寺島さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

コロナを巡る歪んだ情報環境

寺島 冒頭、ちょっと余談みたいなものです

けれども、届いたばかりの『ロンドンエコノミスト』のザ・ワールド・イン・2021というのが私の手元にあります。いろいろなところが新年予測を出している中で、インテリジェンスユニットというのを持ってかなり体系的に分析した揚げ句にポイントを凝縮してくるこの『ロンドンエコノミスト』の予測だけは、私は結構本気で注目しています。去年、つまり2020年について、世界の運命を握るのがアメリカ大統領選挙だというのは誰もが言っていたわけですが、トランプの当選はあり得ないだろうという予測を出してきていたところに『ロンドンエ